

発行：社会福祉法人 多摩養育園 編集：広報紙編集委員会
〒192-0055 東京都八王子市八木町8-11 TEL 042-623-3388・FAX 042-623-3389
制作・印刷：株式会社 共同印刷所 ホームページ：<http://www.tamayouikuen.net/>

みんなの「生きる」を
社会福祉法人



光明第一保育園



SDGs

誰一人も取り残さない世界へ

社会福祉法人 多摩養育園

理事長 足利正哲

新入園児の泣き声は
命のめぐりと 元気を与えてくれる

今 世界は リモートで 同時情報の時代になったが
果たして 映像から その国の事や心が伝わるのだろうか
そんな時 思い出されたのは

日本独立の恩人 ジャヤワルデネ・スリランカ大統領が
雲龍寺に来山時 園児に向けて

「皆さん 世界の平和は こうして人と人が出会
お話をする事が 大事なんですよ」と話されたことを

今 世界は戦争などしている場合ではなく 北極の水が溶け
慢性的な貧困 紛争 飢餓 九人に一人が飢えに苦しむ
片や 世界全体で年間約四十億トンの食品が作られ
十三億トンが捨てられているという

国連サミットで採択された SDGs

2030年までに よりよい世界を目指す国際目標だ
さあ 私たちも 「誰一人も取り残さない世界へ」
できる事から始めようではないか

多摩養育園は全拠点で 福祉なんでも相談を開始する
地域に寄り添い 一緒に考える身近な施設を目指して

この取り組みが 今ここにいる
幼子の未来を創る事になればと

令和3年度 事業計画

1. 重点項目

- (1) あらゆる人々の活躍の推進
- (2) 持続可能な財政経営を実現
- (3) 魅力ある職場づくり、人材確保、定着、育成
- (4) 利用者サービスの向上、安心かつ安全な環境の整備
- (5) 精華改築事業を推進

2. 管理部

- (1) 地域共生社会の実現に向け、ニーズを把握した事業の検討
- (2) 安定経営を見据えた財務管理
- (3) 適切な労務管理と職員処遇の向上
- (4) 大規模修繕及び改築に向けた計画、調整

3. 企画広報室

- (1) 地域住民を主体とした、コロナ禍での新たな事業の企画
- (2) 法人内外の声を幅広く吸い上げ、新たな戦略を打ち立てる
- (3) SNS を活用した情報発信、情報共有
- (4) 様々な年代、異業種とつながり、アイデアを共有、結合することで、価値を生み出す

4. 地域連携室

- (1) 福祉なんでも相談の開始
- (2) 各関係機関との積極的な連携による情報分析・検討
- (3) 働きやすい労働環境の整備
- (4) 安心、安全なその人らしい生活ができる環境の保障

5. 施設部

- (1) 地域における積極的介護予防活動の推進
- (2) 施設の安定した運営の確立
- (3) 働きやすい労働環境の整備
- (4) 多職種連携による支援計画の立案と支援の強化
- (5) 改築計画、資金計画の見直し

6. 保育部

- (1) 地域共生社会の実現を目指し、社会資源としての役割を強化
- (2) 社会情勢を踏まえた事業の着実な推進
- (3) 職員満足度の向上に努め定着を図る
- (4) 理念に基づいた保育の実践及び探求

令和3年度 当初予算

(単位：千円)

勘定科目	合計	勘定科目	合計
事業活動による収支		施設整備等による収支	
収入		収入	
介護保険事業収入	973,240	施設整備等補助金収入	151,242
老人福祉事業収入	781,497	施設整備等寄附金収入	0
保育事業収入	2,602,030	設備資金借入金収入	30,000
障害福祉サービス等事業収入	538,838	固定資産売却収入	0
生活保護事業収入	421,873	その他の施設整備等による収入	0
医療事業収入	25,018	施設整備等収入計(4)	181,242
介護予防事業収入	202,322	支出	
雇用関係助成金収入	0	設備資金借入金元金償還支出	91,951
その他助成金収入	0	固定資産取得支出	267,013
子供食堂推進事業収入	0	固定資産除却・廃棄支出	0
駐車場経営収入	2,700	ファイナンス・リース債務の返済支出	24,849
借入金利息補助金収入	4,023	その他の施設整備等による支出	0
経常経費寄附金収入	590	施設整備等支出計(5)	383,813
受取利息配当金収入	289	施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△ 202,571
その他の収入	56,072	その他の活動による収支	
流動資産評価益等による資金増加額	0	収入	
事業活動収入計(1)	5,608,492	積立資産取崩収入	68,104
支出		その他の活動による収入	0
人件費支出	3,798,131	その他の活動収入計(7)	68,104
事業費支出	805,985	支出	
事務費支出	651,260	積立資産支出	216,154
利用者負担軽減額	280	その他の活動による支出	0
支払利息支出	9,904	その他の活動支出計(8)	216,154
その他の支出	44,771	その他の活動資金収支差額(9=7-8)	△ 148,050
事業活動支出計(2)	5,310,331	予備費支出(10)	12,600
事業活動資金収支差額(3=1-2)	298,161	当期資金収支差額合計(11=3+6+9-10)	△ 65,060

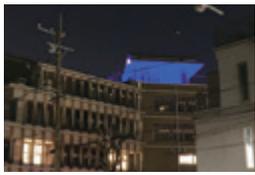
福祉なんでも相談

令和3年4月より、各施設で新たな地域貢献として「福祉なんでも相談」を開始。どんなことでも、どんな悩みでも多摩養育園職員が丁寧に向います。皆様の気になることなどを何でもご相談下さい。



医療従事者への応援 ブルーライトアップ

コロナ禍の中、医療現場に従事されている皆様に感謝と応援の意を込め、多摩養育園18施設で「ブルーライト」を点灯。



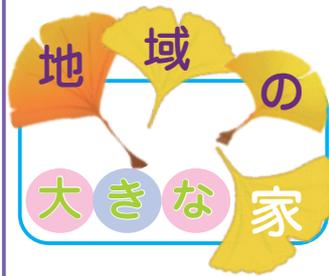
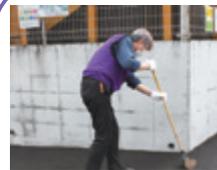
多摩養育園法人本部



多摩特養老人ホーム 光明第五保育園

コロナ禍でも大活躍!!

制限ある中で、ボランティア活動を継続して下さっている地域の皆様。保育園では園舎周りの清掃、教材準備のお手伝い、花壇の整備を。みなさんの力が施設の活気に。ありがとうございます。



多摩養育園福祉まつり2020

今年度は、多くの皆様に支えられて取り組んできた11年間の歩みをリーフレットと動画配信で開催。『コロナは世界を変えた。しかし、改めてつながること、助け合うこと、離れていても近くにいてもつながる大事さを教えてくれた』



地域との絆

コロナの影響により、様々な事が制限され、行き場のない状況が続く中、地域との絆を実感した一年。こんな時こそ人と人とのつながりを大切にしたい。

コロナ禍での地域の大きな家

「青空食堂「ヨガ」など、感染対策を行いながら、地域拠点活動を徐々に開催。参加者からは「足を運べる場所があるのは嬉しい」と笑顔の輪が広がる。



願いよ叶え! 無料塾 檜の里

中学3年生を中心に開催されている無料塾。受験を控えた学生に向け、絵馬を用意。願いを書く姿から受験生の強い意思が感じられた。絵馬は、合格祈願でも知られる天海山雲龍寺に奉納。



心温まるプレゼント

交流できる日が待ち遠しく、不安な日が続く毎日。地域の皆様からの手作りの品物、植物などを頂きました。お手紙には「笑顔で会える日までお互いに健康に過ごしましょう」と、職員への温かい励ましの言葉が記され、繋がりを実感。



多摩養育園の 秋冬

●運動会 10月

かけっこや遊戯、自分自身で目標を決め挑戦するサーキット、遊びの中で培ってきた力を発揮。最後まで諦めず頑張る子ども達の姿に感動の拍手が。



●車人形鑑賞 10月～11月

国・選択無形民俗文化財・東京都指定無形文化財、多摩養育園福祉大使でもある八王子車人形の西川古柳家元のご厚意により、今年も光明保育園を巡回公演。車人形の技法に触れ、日本文化の素晴らしさを体感。



●遊戯会 12月

遊びの中で培かれた、話す、歌う、表現する力。子ども達が主体となって劇や台詞、振り付けを決める。舞台では、表現の楽しさが伝わる生き生きとした姿が。



●クリスマス会 12月

待ちにまつたクリスマス。各施設で3密対策を講じながら趣向を凝らし開催。リモート配信も利用し、入居者様も園児もサンタクロースの登場に大喜び。



●新年祝賀式 1月1日

新たな年の幕開けとなる新年祝賀式を開催。理事長挨拶、コロナ収束を祈念する今年の一文字「祈」の書初め、だるまの目入れをリモートで実施。



●初詣 1月8日

全園年長270名が参加の初詣。雲龍寺住職に、リモートでご祈祷いただき、一日も早い、コロナの収束と園児の健康と平和を祈念。



●節分 2月2日

1897年依頼、124年ぶりに2月2日となる令和3年の節分。「鬼は外、福は内」と入居者様、園児が元気に豆をま



て鬼退治。



●初午 2月3日

2月最初の午の日にお稲荷様に五色の旗を飾り、五穀豊穡を祈念。檜の里では、開設当初からお祀りしていたお稲荷様の社を新調。



●法人一斉避難訓練 3月11日

東日本大震災から10年。犠牲となられた多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、法人では地震・火災を想定した訓練を今年も全施設にて一斉に実施。



●赤い羽根共同募金・歳末助け合い運動

赤い羽根共同募金総額143,913円を東京都共同募金会へ。歳末助け合い募金総額154,985円を施設所在各市社会福祉協議会へ寄付させていただきました。

皆様のご協力ありがとうございました。



光明の保育 「やりたい」が「できた」になるまで

やらされるのではなく、やりたいと思えるように。「明日はこれをやろう！」毎日、目的をもって保育園に来られるように。自分で「やりたい」と思ったことだから。出来なくても、何度も挑戦。すぐに教えるのではなく、急がすのではなく。私たちは、子どもの自立的な「育ち」を見守り、支える。それが私たちの光明の保育です。

育ち合う力

好奇心旺盛な乳幼児期。色々なことに挑戦する子ども達。友達と関わる中で、時に喧嘩をしながら、思いや考えを共有し、ともに成長し、喜びを分かち合いながら「協同性」が育まれていく。



興味が気持ちを掻き立てる



みんなで作り上げる行事

行事は、その時々の子どもの発達を見せる。



身の回りの様々なものに興味を示し、その子なりのやり方で関わろうとする。保育者は、子どもの行動や発する言葉をよく観察し、今何に興味関心を抱いているのか考えながら、環境作りの工夫を繰り返す。



記事は「こうだより」よりバックナンバーはこちらから

養育園の支援 自然と笑顔があふれる

日々ゆっくりと過ぎていく時の中、小さな変化や何気ない会話は、自然と笑顔につながる。入居者様や職員の笑顔は、生活の活力になる。入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、支える。これが多摩養育園の支援です。

みんなが集う、笑顔が集う



聞こえる子どもたちの声、温かな日差し。自然と笑顔がこぼれる、入居者の皆様の様。



ご家族や園児、ご近所の方や入居者の皆様。人と人の触れ合いは、心を豊かにしてくる。日常の日向ぼっこも笑顔あふれる楽しい時間になる。

入居者様の言葉は、職員の笑顔に

入居者様の一言にはっと笑顔になる。「あなたの笑っている顔を見ると元気がでて幸せな気持ちになるの」と言われとても嬉しかった。」と心温まる。

世代を超えた交流は、笑顔につながる

人と人との交流は形ややり方が変わっても笑顔があふれる。



各施設において、新たな形式の「リモート世代間交流を実施、参加者からは「遠くの孫となかなか会えないから、子どもの顔を見て交流できるのは楽しいよ」と好評。

涙の別れを笑顔の別れに

新たな生活の場に向けて旅立つ方に、激励の声掛けやプレゼントは、不安や悲しみ等を減らし、亡くなられた方には、入居者様、職員でお別れ会を開き、最期の「お疲れ様」の一言を。



連載 八王子の名僧 卜山ぼくざん 19

『郷土を慈しむ気持』



寛永三年（一六二六）、師百二十歳。九月十八日、卜山師は信松院二世禅山薫説を入室させ教導した。

この日は旧暦。今の暦では十月に相当。十三夜、満月の頃。次の公案を問いかけた。「其方は、月が二つある、これを知っているか。」この公案は、曹洞宗四世瑩山和尚がとりあげて以来、重んじられている。

月が二つとは、中天に澄みきって輝く月、地上の山や川、町や村を照らし、人々に四季の生活の営みを与える月の光、この二つを指す。中天の月は悟りの境地、地上にそそぐ月光は、時の流れをあらわす。

卜山さまはこの答えをよしとして、印可した。この公案に、百二十年の生涯の想いを託した。自分を育ててくれたのは、この八王子の山、そして川、四季それぞれの美しさだ。郷土を慈しむこの気持こそが、釈尊の教えを深くつかませ、悟りに至る道をきりひらいてくれた。

八王子の西方山地の風光が神霊の宿る場所としてふさわしいという認識、これを皇室は抱かれておられた。卜山は、そう拝察した。

今ここに、大正天皇、昭和天皇のみささぎ（御陵）がたつ。 文 AM生

感謝

期間…令和2年9月1日〜

令和3年2月28日

ご芳情

魚國 オリンパス株式会社 小関伸吾
重田明子 精華家族会 橋本キヨ 濱中
キン子

ボランティア

足利正尊 井口良雄 池田恵美子 石井
美一 伊勢恒二 市川和夫 岩瀬睦子
梅沢静子 江成由美子 大中津也子 大
石英俊 岡本悦江 荻島一 小佐野恵美
子 長田誠一 勝山紀美子 加藤樹一
来住野幸子 来住野典子 君島航平 久
保里香 駒澤キヨ工 小峰正次 斎藤章
下田義則 鈴木孝昭 鈴木彩美 須田キ
ヨ子 高橋茂子 高尾山とんとん昔語り
部の会 高橋眞弓 武田大介 田邊孝視
土井俊玄 土井俊彦 東京都立大学児童
文化研究会 友近やつくん 豊田義主
仲川フミ子 中川康行 西尾トシ子 西
川ナミ子 畠山勝実 花谷栄次 濱野康
子 早川澄得 原田信夫 府中市介護予
防サポーター元氣一番！ひろめ隊 宝寿
会 星野拓也 前島美津枝 前野栄作
益田喜子 真己幹子 宮野哲雄 村上沙
織 茂手木斉 柳川末夫 山田浩二 山
下徳次 山下友之 湯澤美夏 渡辺栄子
渡邊艶子 以上

ご支援、ご協力ありがとうございました。

表彰

救急業務協力者表彰 光明第六保育園

養護老人ホーム櫛の里

光華

火災予防業務協力者表彰

光明第八保育園

資格取得

保育士資格

光明第一保育園

高橋 舞

社会福祉主事

養護老人ホーム竹の里 安藤美佳

多摩特養老人ホーム

浦野寛之
山下健治

題字・表紙写真 足利正哲

後記

新型コロナウイルスが世界で確認されてから、1年が経過。私たちの生活は一変しテレビやオンライン会議等、新しい生活様式と共に過ごす日々も定着しつつあります。そんな毎日ではあります。先日雨上がり、ふと空を見上げると、アーチ状の大きな虹が出現。虹は「願いが叶う・明るい未来の到来」ともいわれます。虹は暖かな感触を残していつのまにか消えてしまいました。私たちの心の中、人と人とを繋げる虹はいつでも美しくありたいものです。一日も早いコロナの収束と平穏な日が続いてくることを願っております。

広報紙編集委員会